

その104 今回の記事は1996年の北米・ヨーロッパ・アフリカです 1996年(2)  
「あの人は今(第29回)」JA7AUM 石戸谷正晴氏



JA3AER 荒川泰蔵

■今回の記事は1996年の北米・ヨーロッパ・アフリカです

今回は1996年の第2回目で、北米・ヨーロッパ・アフリカです。この年は海外運用のレポート/アンケートが少なく今回の2回目で終わります。サンスポットがボトムに近づくサイクルと関係があるのかも知れませんが、この記事の情報の基になっているCQ誌の「日本人による海外運用」の記事が終盤を迎え、積極的なアンケートの募集をやめたからだったかも知れません。尚、今月の「あの人は今(第29回)」は、JA7AUM 石戸谷正晴氏の紹介です。

■1996年(米国 W2YT, W6/JA7YMY)

JA7AUM 石戸谷正晴氏は、1984年1月に赴任した米国でノビス級のKA2ZJGの免許を得て無線生活をスタートし、1986年にゼネラル級とアドバンスド級にアップグレードしてKD2UGに、翌1987年にはエクストラ級に合格、NV2Gのコールサインで活躍されたが、バニティコールサイン制度が出来た1996年にW2YTを取得、1998年にインドへの転勤で米国を離れるまでこのコールサインで運用したと、当時を思い出してレポートしてくれた(写真1及び2)。「1996年11月4日Vanity CallsignのW2YTを取得、1987年以来使用してきたNV2Gからコールサインを変更する。W2YTでの最初のQRVは11月13日からでその当時使用していたリグはIC-781とリニアは77DXであった。77DXは1994年KP2BDから購入、現在も現役である。アンテナはモズレーの3エレトライバンダーと7メガ用ダイポールであった。タワーはNV2N(JA1FNO)の須之内さんから譲り受けたルーフタワーでそれが結構高かったのでアンテナは2階建ての家の屋根よりちょっと高くすることが出来た。7メガや14メガでカリブ海の局や南米の局とのCW QSOが多かったが11月14日にはCQを出していたら、5N3/SP5XARが呼んできて長いCW QSOなども出来た。11月には又CQWW CWやJapan Int'l, All Asiaなどに参加、JAの局とたくさんQSOをした。QTHがNJだったのでヨーロッパ、中南米、アフリカは割と楽にQSO出来たけれど東南アジアは特にダイポールアンテナの7メガは大変厳しかった。ある日7メガをワッチしていると大きなパイルが出来ていたので良く聞いてみるとベトナムの局だった。何回も呼んでいるうちにコールバックがありファースト3Wとなった。あの当時は私にとって7メガでの東南アジアは大変難しく、その日は気持ちウキウキしたものである。毎週の21メガや7メガでのJANETのグループQSOも出来るだけ参加した。21メガではJAとのQSOが難しいときがあるが、日曜の朝の7メガのJANETは大変楽しかった。主にNJ, NYやカナダの局が主だったが、時にはカルフォルニアの局等も加わり日曜の朝を過ごした。又殆ど毎週のようにJA7TI、くりこま高

原のユサさんとは1時間と長いQSOした。殆どはJA7TIとN2ATFのQSOだったがそれに割って入ったと言う事である。それからJA7SSBさんとも良く14メガでQSOし、日本の事などを話してくれた。1997年も後半になったころ会社からインドへの転勤を命ぜられ、12月インドのビザも取得できず転勤準備を始め、1998年2月22日NJでの最後の7メガJANETに参加した。その時のチェックイン局はN2ATF, VE3PXD, VE3TKWと私W2YTの4局だった。尚、1997年12月までのW2YTで申請したDXCCクレジットは285エンティティであった。(2020年5月記)

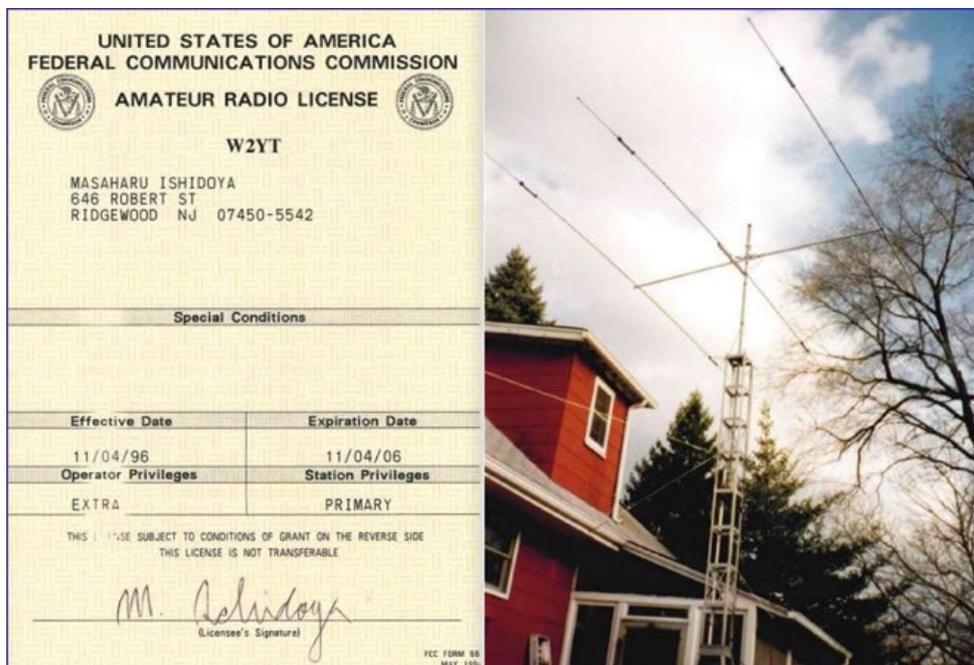


写真 1. (左)W2YT 石戸谷正晴氏の免許状。(右)W2YT 石戸谷正晴氏のアンテナ。

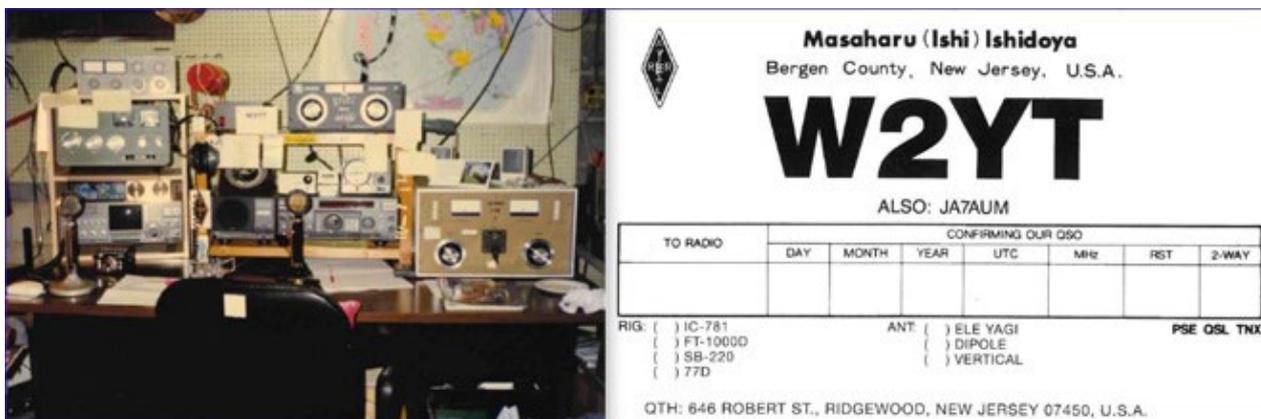


写真 2. (左)W2YT 石戸谷正晴氏のシャック。(右)W2YT 石戸谷正晴氏の QSL カード。

JF7NSI 平山豊氏は、全国工業高校教諭海外研修で米国及び欧州を視察された機会に、勤務先の青森県立五所川原工業高校のアマチュ無線クラブ JA7YMY の免許を基に、FCC の相互運用協定による免許を得て W6/JA7YMY を運用したと、CQ ham radio 編集部経由でアンケートを寄せてくれた(写真 3 及び 4)。「(一部抜粋) - 前略 - 再び海外研修のチャンスが得られたので、今度こそ是非交信を成功させたいと考え、生徒達にも宣言した。そのために前回の問題点を解決すべく、かなり手を尽くしたがよく分からない。海外研修の2ヶ月前位になって、地元のハムショップから JARD の奥原様を紹介され、そこから野村四郎(JA1CB)さんを紹介されて、漸く一気に先が開けて来たのである。野村さんからご紹介頂いたロサンゼルスのか萩原(N6JGJ)さんにはいろいろお世話になりました。ご自分

のシャックがロスから遠いのでと、オレンジカウンティの久保田(KZ9D)さんのホームに連れて行って下さり、HF を運用させて下さいました。実のところ私は“海外交信をする”と大げさに騒いでいる割に HF 運用はド素人、英語もラバースタンプ QSO すらきちんと身についていない。それでも心臓を強くして、皆様の環境設定のもと、遂に 2 局交信成立したのである。旅立ち早々ついている。25 日間頑張るぞ! しかしメインの研修を持ち、毎日ホテルで荷物の整理をしながらの移動である。QSO にさける時間も少ない。それでも、衛星通信までやる本田先生(JA7EWW)が研修の相棒であったので、先生はさすが無線機を身から離さない。列車やちょっとした暇があればスイッチを入れている。先生から環境設定が聞けるものですから私もつられてワッチを続け、QSO のチャンスをうかがった。それにもかかわらず、私は 1 局もとれませんでした。

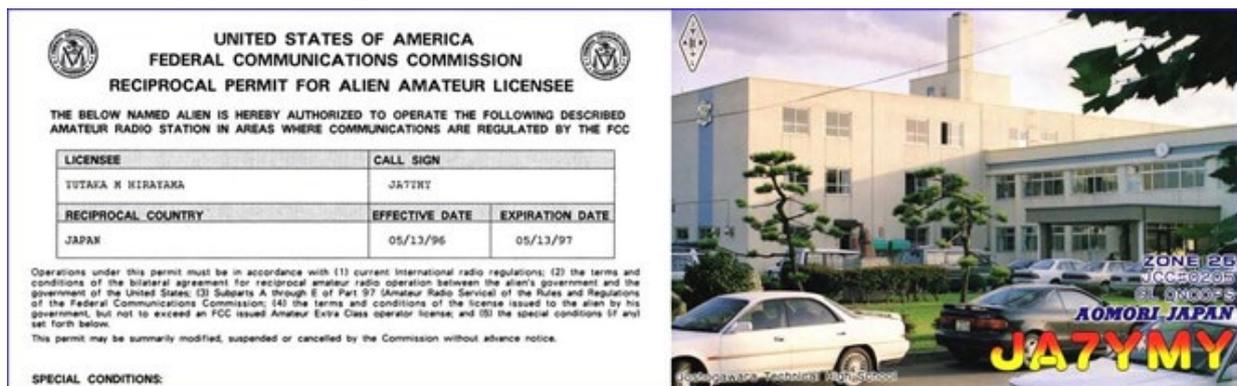


写真 3. (左)JF7NSI 平山豊氏の JA7YMY での FCC 免許状。  
(右)JA7YMY の QSL カード。

ロス、ニューポートビーチ、サンディゴで 4 日間過ごし、次はヨーロッパである。次にライセンスを取得しているのはフランスとドイツである。アムステルダムに宿泊した際、ヤエス無線の大保(PA3FHA)さんと、シャープの荒川(GWORTA)さんがホテルを尋ねて下さり Eye Ball Meeting。各国の無線に対する規制の違いが話題になり、日本の規制が非常にきびしいことを聞いてびっくりしました。残念にも思いました。ドイツで使えるヤエス無線のハンディ機は、私達のために名黒(DL6FDB)さんから貸して頂きました。5 日間のドイツの移動中に本田先生は慣れたものですぐに交信をする。私は“待機しています”とやっても応じてくれる方ではありませんでした。ヨーロッパではトライしただけで終わりました。-後略-

(1996 年 10 月記)



写真 4. アムステルダムにて左から、PA3FHA 大保博氏の 2nd タツヤ君、GWORTA 筆者、PA3FHA 大保博氏、JF7NSI 平山豊氏、JA7EWW 本田毅氏。

## ■1996年 (イタリア IZ2AHI)

JG1TCG 藤栄一氏はイタリアで資格試験を受けて従事者免許を得、無線局の申請で局免許を得て運用した経験をアンケートで知らせてくれた(写真5及び6)。「イタリアのPT本省とARI(アマチュア無線連盟)の好意による特別な資格試験にパスし、従免を手にすることができました。しかし、日本と同じでイタリアでもこれだけではまだ自分のコールサインで電波が出せません。局免が必要です。早速局免の申請をしました。当局は Licenza Ordinaria ですが、この中がさらに 1st から 3rd にクラス分けされており、最大許容出力が異なります。とはいっても申請料の僅かな違いで 1st から 75W, 150W, 300W の順になっていますので、迷わず 3rd クラスにしたのはいうまでもありません。おそらく HF に出ているイタリアの局は、ほとんどが 3rd クラスで 300W の許可を受けているといっ  
てよいでしょう。待つこと約 3 ヶ月、1996 年 5 月末ようやく仮免許が送られてきました。これで本免許が来るまでの間、仮の運用ができるのです。コールサインは既にこの時点で指定されています。待望のコールサインは、ロムパルディア(2 エリア)で最近下りたばかりの新プリフィックス IZ2AHI でした。久々の感激です。イタリアでは Licenza Ordinaria は、I→K→Z という順に、また Licenza Speciale は IW というプリフィックスが割り当てられています。そしてついに、1996 年 9 月下旬、イタリアのハムの仲間入りを決意してようやく 1 年後にして本免許を受領し、本開局にこぎつけました。日本より赴任時に持参したアンテナなどを含め、HF は 6 バンドバーチカル、6m は 2 エレ HB9CV、2m は 8 エレ八木、それに V/UHF は、ディスコーンなどをアパートの屋上に設置(地上高 25mH)し、TS-690S, IC-706 及び IC-720 で、HF から V/UHF までを運用しました。(1997 年 3 月記)」



写真 5. IZ2AHI 藤栄一氏の QSL カード 2 種。



写真 6. (左)IZ2AHI 藤栄一氏の従事者免許証と、(右)局免許状。

## ■1996年 (ドイツ DH/JP1HIS, DA0YL, DL/7K1OUO, DL/7M1HDU)

JP1HIS 奈良圭之輔氏は、滞在先のドイツから DH/JP1HIS の短期免許を得て運用していると、その免許取得の方法を、アンケートで寄せてくれた(写真 7)。「日本人が申請出来るドイツのアマチュア無線免許には 2 つのタイプがあります。1) 3 ヶ月の短期免許: 希望する運用開始日の 6 週間前までに DARC に申請します。必要な物は、申請書、日本の無線局免許状のコピー、無線従事者免許証のコピー、申請料 15DM です。運用許可は 3 ヶ月限定で、運用を希望する月の初め 1 日からになります。コールサインは、日本の資格別に 1 アマ及び 2 アマは DL/日本のコール、3 アマは DH/日本のコール、4 アマは DC/日本のコールになります。2) 1 年以上の長期免許: 基本的にドイツの滞在許可証を 1 年以上有効なものを所持している事が条件です。この長期免許の場合は DL?xxx というドイツ人と同じコールサインが頂けます。手続きに必要な書類は開局申請書(JARL の FAX サービスにて取得可能)、VISA のコピー 2 通、無犯罪証明書 1 通(日本の警察から証明書を取り、現地の市庁舎または警察本部に申請すれば、ベルリンの法務局から送られてくる)、日本の局免と従免のコピー 2 通にその英訳または独訳のコピー 2 通です。申請先は地元の BAPT(Bundesamt fuer Post und Telekommunikation)です。(1997 年 5 月記)」

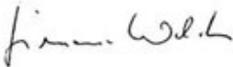
<p>BUNDESAMT FÜR POST UND TELEKOMMUNIKATION</p>  <p>KURZZEIT-GENEHMIGUNG ZUM ERRICHTEN UND BETREIBEN EINER AMATEURFUNKSTELLE</p> <p>SHORT-TERM LICENCE TO SET UP AND OPERATE AN AMATEUR RADIO STATION</p> <p>LICENCE DE COURTE DUREE POUR L'ETABLISSEMENT ET L'EXPLOITATION D'UNE STATION DE RADIOAMATEUR</p>	<p>Vor-Zuname / Christian name and surname / Prénom et nom : <b>Keinosuke Nara</b></p> <p>Wohnort / Place of residence / Domicile: <b>Japan-Tokyo</b></p> <p>Genehmigungsnummer: <b>117/96</b>      Klasse: <b>A</b> Licence number / Numéro de licence      Class / Catégorie</p> <p>vom / from / de:      <b>01.10.96</b> bis / until / au:      <b>31.12.96</b></p> <p>Rufzeichen / Call sign / Indicatif d'appel:      <b>DH/JP1HIS</b></p> <p>wird die Genehmigung erteilt, eine Amateurfunkstelle in der Bundesrepublik Deutschland zu errichten und zu betreiben. is hereby authorised to set up and operate an amateur radio station in the Federal Republic of Germany. est autorisé à établir et à exploiter une station de radioamateur dans la République fédérale d'Allemagne.</p> <p>Mülheim, den 29.08.96      Bundesamt für Post und Telekommunikation Im Auftrag</p>  
<p>Diese Genehmigung gilt ausschließlich innerhalb der Bundesrepublik Deutschland und gilt nicht im Rahmen der CEPT-Empfehlung T/R 61-01. This licence is only valid within the Federal Republic of Germany. It is not based on CEPT-Recommendation T/R 61-01. Cette licence est valable dans la République fédérale d'Allemagne seulement. Elle n'est pas basé sur Recommandation T/R 61-01 de la CEPT</p>	

写真 7. DH/JP1HIS 奈良圭之輔氏の短期免許状。

7K1OUO 佐藤いづみさんと 7M1HDU 大泉早智子さんは、Berlin YL World '96 と、Ham Radio に参加したとアンケートを寄せてくれた(写真 8~10)。「日本の従免と局免を DF2CW さんに送り、ドイツの短期免許を取得して頂きました。ベルリンでは Berlin YL World '96 のクラブ局 DA0YL を 14MHz で運用、ベルリンから Ham Radio の開かれた、フリードリッヒスハーヘンへの移動中に、それぞれ DL/7K1OUO, DL/7M1HDU で 144MHz, 430MHz を運用、多くの局と QSO させて頂きました。(1996 年 7 月記)」

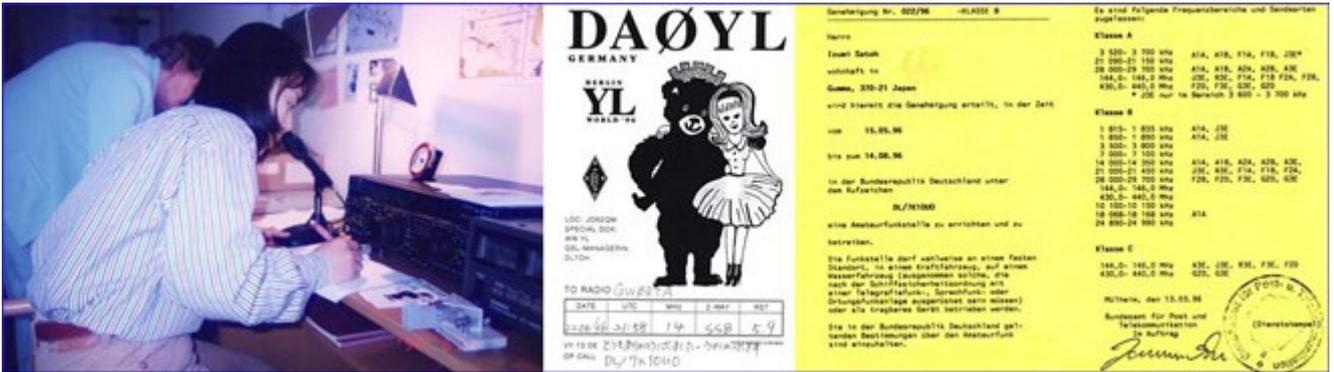


写真 8. (左)DAOYL を運用する佐藤いづみさんと、(中央)その QSL カード。  
(右)DL/7K1OUO 佐藤いづみさんの短期免許状。

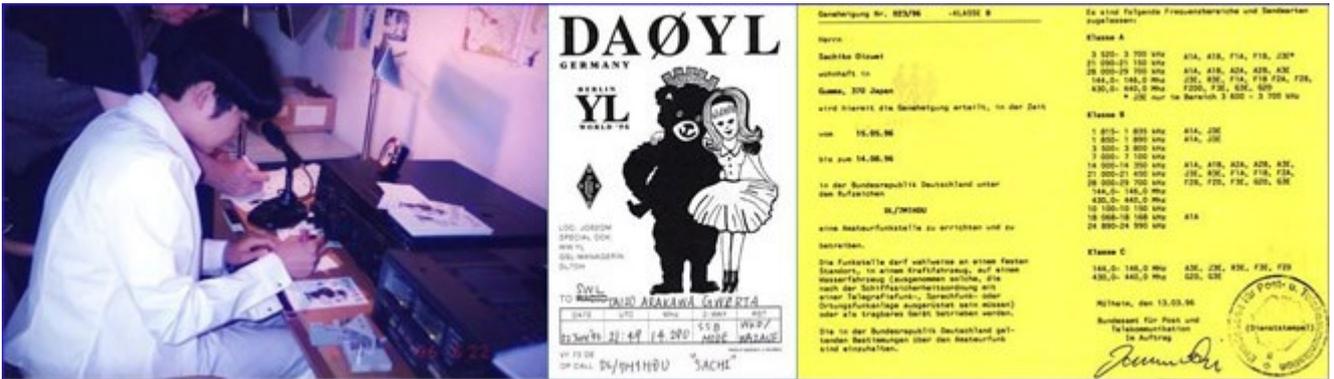


写真 9. (左)DAOYL を運用する大泉早智子さんと、(中央)その QSL カード。  
(右)DL/7M1HDU 大泉早智子さんの短期免許状。



写真 10. (左)DJ1TE クリスタさんのシャックにて、  
左から DL/7M1HDU 大泉早智子さんと DL/7K1OUO 佐藤いづみさん。  
(中央)DL/7M1HDU の大泉早智子さんの QSL カード。  
(右)DL/7K1OUO 佐藤いづみさんの QSL カード。

## ■1996年 (オランダ PA/GWORTA/P)

JA3AER 筆者は、英国駐在中の夏休みに、オランダ旅行をした記録を残していた(写真 11 及び 12)。「1996 年 8 月 1 日から 4 日間、XYL と隣の国オランダのアムステルダムに出かけました。その 8 月 3 日には、PA3FHA 大保博氏に車でハーグ市内にある通信博物館と美術館を案内して頂くなど、大変お世話になりました。そして大保氏のシャックから、PA/GWORTA/P で 14MHz と 7MHz の SSB で運用させて頂きました。日本時間では 01:00 を過ぎていましたが、14MHz で 3 局の JA と QSO ができ、合計 13 局と QSO させて頂きました。

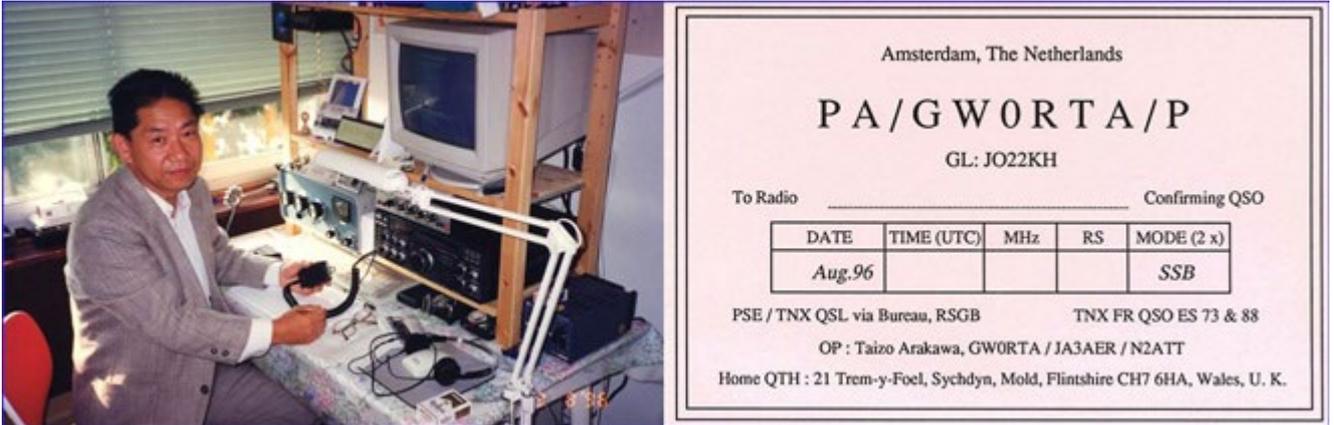


写真 11. PA/GWORTA/P を運用する筆者と、(右)その QSL カード。

またその日の夜は大保博氏のご家族と一緒に夕食のあと、たまたま日本から海外研修でアムステルダムを訪問中の福島県立会津工業高校の先生 JA7EWW 本田毅氏と、青森県五所川原工業高校の先生 JF7NSI 平山豊氏を投宿されたホテルに訪ね、オランダのビールを飲みながら、深夜まで情報交換をさせて頂きました。(1996 年 8 月記)」



写真 12. (左)シャックにて PA3FHA 大保博氏。(右)左から GWORTA 筆者、PA3FHA 大保博氏、JF7NSI 平山豊氏、JA7EWW 本田毅氏。

## ■1996年 (リヒテンシュタイン HBO/HB9LEY)

JA1LZR 岩倉襄氏は、ルクセンブルグでのHBO/HB9LEYの運用を、アンケートでレポートしてくれた(写真 13 及び 14)。「FCC のエクストラライセンスと、スイスの B 許可書(労働許可書)により、スイスの A 級ライセンスを取得。1996 年 1 月から 1998 年 3 月迄に 20 回以上、延べ 60 日以上にわたり SAROJA HOTEL よりオールバンド SSB, CW, RTTY を運用。特に冬場のローバンドを重点的にサービスした。160 メーターの JA はファーストエバー、又、3.5/3.8 では多くの JA にニューワンをサービス出来、WARC バンドを含む 160~10 メーターで、約 15,000QSO 出来た。リヒテンシュタインはスイスとオーストリアにはさまれた山地で、しかも狭いので、JA 方面に開いているロケーションを探すのに苦労したが、幸いリヒテンシュタインに近い HB9BFN の協力で、SAROJA HOTEL を探すことが出来た。そして SAROJA HOTEL の好意により、アンテナを自由に建てさせて貰う事が出来た。海拔が 1,000m 近くのため、冬場の厳寒の季節はアンテナの上げ下ろしには苦労した。(1998 年 3 月記)」

		<b>HBO/HB9LEY DX-Pedition To LIECHTENSTEIN</b>				
		CQ Zone#:14 ITU Zone#:28 G.L.# :JN47SD	Operator:Joe Iwakura (Ex:JA1LZR,N2AIR)			
<b>TO RADIO</b>		<b>CONFIRMING OUR QSO</b>				
DAY	MONTH	YEAR	TIME/UTC	MHz	MODE	RST
					<input type="checkbox"/> CW <input type="checkbox"/> SSB <input type="checkbox"/> RTTY	
RIG:FT-1000MP,IC-780,FL2100Z ANT:TH3,DX-77 (Vertical),Windom(75/80/160m)						
<input type="checkbox"/> PSE QSL TNX		<input type="checkbox"/> QSL-Manager:JH1BSE		Via JARL buro or Direct: 2-10-6 Arai,Nakanoku Tokyo ,Japan 〒165-0026		

写真 13. HBO/HB9LEY 岩倉襄氏の QSL カード表と裏。



写真 14. (左)SAROJA HOTEL の前で、HB9LEY 岩倉襄氏。  
(右)厳寒期のホテル周辺の風景。中央にアンテナが見える。

## ■1996年 (セーシェル S79SF)

JH6RTO 福島誠治氏はセーシエルの S79SF の免許を得て、マヘ島から QRV したとアンケートを寄せてくれた(写真 15)。「ライセンス:事前に Seychelles Licensing Authority に申請しておけば、現地で出頭し 500 セーシェルルピー(約 11,000 円)を支払い、3 ヶ月間の短期許可がもらえます。運用:Condx がボトムで、JA とはそれなりに距離があり、ベアフット+GP では、JA とは大変です。ホテルのシャックでは主に EU と QSO しました。滞在中の昼間に限って S79KMB, Keith のシャックをお借りすることができ、ここで楽に JA をピックアップすることができました。JA のみで 900 局程度です。ゴールデンウィークに、S79 からリニア/ビームの環境でしたから、パイルは最後まで途切れませんでした。TI9, ZL8 の日程が近かったので、皆さん待機していたのかも知れません。文句なく楽しかったです。ビーチも世界一。ただし、水中はパツとしません。(1996 年 8 月記)」



写真 15. S79SF 福島誠治氏の QSL カードの表と裏。

## 「あの人は今 (第29回)」 JA7AUM 石戸谷正晴氏

今月号の米国の欄で紹介させて頂いた JA7AUM 石戸谷正晴氏は、現在青森県にお住まいで JANET クラブのネットにもチェックインしておられます。その石戸谷氏から、その後の経過を含めて、現在のご様子をレポート頂きましたので紹介させて頂きます(写真 16 及び 17)。「その後 1998 年には、米国からインドへ転勤したが、1 年後会社の都合で帰国した。日本では心臓の手術をしたり、通訳ガイドの国家試験を受けたり、英語塾を始めたりしたが、2000 年に米国の友人から仕事を手伝ってほしいと頼まれ再度米国へ行った。以前と同じ中南米、カリブ海諸島向けの販売を担当し、マイアミで、2 回目の米国生活を開始した。中南米のビジネスマンはビジネスでもプライベートでもマイアミに来る場合が多いためである。マイアミではアパート住まいだったので、簡単なアンテナと FT-1000D だった。楽しみはフロリダのハムフェストへ行くことだった。アパートから車で 20 分位の場所で行われフロリダでは一番大きなハムフェストだ。またディズニーワールドで有名なオーランドでもハムフェストがあった。オーランドではハムフェストの他にディズニーワールドやユニバーサルスタジオへ行くことが出来るので家族連れで来る人が多い。これら 2 つのハムフェストへは毎年行った。マイアミに 2 年ほどいた後ニュージャージー州へ戻った。ニュージャージー州では一軒家だったのでロングワイヤーのアンテナを張ること

が出来、日曜日の朝の JANET に参加することが出来た。住んでいた家を購入しようと思って売買契約をした次の日に、またマイアミへの転勤が決まりすぐ契約をキャンセルした。2年間のニュージャージー州生活だった。その後日本へ帰国するまでマイアミで勤務した。住居は Boca Raton という町で、Buddipole アンテナを設置して K3 キットを組み立て 100W で運用した。2011 年に一応仕事の方も区切りがつき日本へ帰国した。日本を出てから約 40 年の海外生活であった。日本に帰国してすぐ遭遇したのは東日本大震災、津波であった。私の住んでいる弘前では何の被害もなかったが、津波の 1 ヶ月後気仙沼の従兄を訪ねた時、陸前高田の一本松を見て唾然とした。帰国後は英語塾の再開、スペイン語講座の開始、文化センターでの英語講師等をしながら、英語通訳案内士としての仕事と生活をエンジョイしている。主にクルーズ船のツアーリストの案内をしていて、青森県を始め東北 6 県、北海道、関東、関西から去年は九州も始めた。スペイン語でのガイドも始めて、ヨーロッパ、北米、中南米等、世界中から日本を訪れる観光客を案内することを楽しんでいる今日この頃である。ガイドの仕事始める迄は、こんなに日本の観光地を巡る機会を得るとは夢にも思っていなかった。(2020 年 5 月記) 尚、インドでの VU3MIY の様子は 1998 年の記事で紹介させて頂く予定です。



写真 16. (左) 経営する英語塾の生徒募集の看板の前で、愛犬と共に石戸谷ご夫妻。  
(右) JA7AUM のシャックにて石戸谷正晴氏。

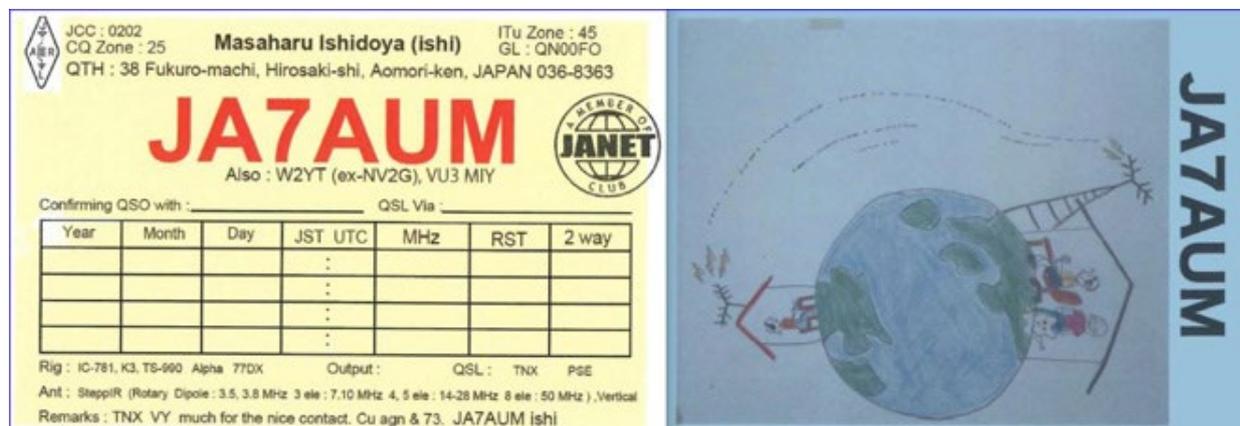


写真 17. (左) JA7AUM 石戸谷正晴氏の QSL カードの表。  
(右) QSL カードの裏側には、お嬢さんが子供の頃描いた絵がプリントされている。